

第16回市内小・中学校美術展を開催します

市内児童生徒の美術作品を広く市民の方に鑑賞していただくとともに、市内小・中学校の図工教育・美術教育の充実と向上を図ることを目的として、第16回市内小・中学校美術展を開催します。

市内小・中学校17校の児童生徒の絵画、版画、デザイン画、立体作品、学級旗等、工夫いっぱいの個性豊かな作品が多数展示されます。ぜひご来場ください。

日時…2月17日(水)～19日(金)
10:00～21:00 (19日は15:30まで)

場所…E L Mホール

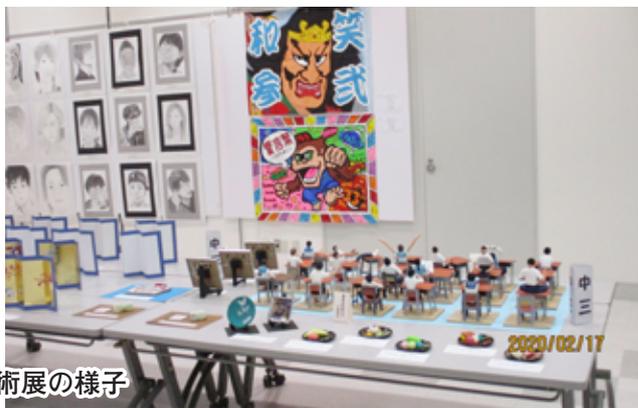
入場料…無料

*「いじめのない社会啓発カレンダー」の無料配布予定
(数に限りがあります)

問い合わせ先…学校教育課 内線2974



※昨年度の美術展の様子



健康万歩計は、西北五医師会が、皆さんが健康で元気に過ごすために必要な情報を提供し、ドクターからのアドバイスを紹介するコーナーです。

健康 万歩計

人生会議って？

医療法人誠仁会 尾野病院 院長 一戸 淳 先生



みなさんは『将来自分がいよいよとなったら、どのような最期を迎えたいか』ということについて考えたことがありますか。

自分が病気や事故で寝たきりや意識がない状態になった時、延命処置はしてほしくないと思う人もいれば、最後まで最善の医療をしてほしいと思う人もいます。あるいは、痛みや苦しみだけはやわらげてほしいと思うかもしれません。そのような考えや思いを誰かと話し合ったことがありますか。もしもの時のことを話し合うのは不吉だとか縁起が悪いと言って避けるのではなく、向き合うことが必要です。

自分で判断ができるうちに、将来病気になった時に備えて、自分が受けたい治療、受けたくない治療をあらかじめ表明しておくことを事前指示と言います。その内容を具体的に文書化したものを事前指示書と言います。本人の事前指示に基づいて、家族や医療者、介護者と話し合い、今後の人生をどのように過ごしたいのか、どの治療を受けたいのか、どの治療は受けたくないのか決めていくことを、アドバンス・ケア・プランニング（ACP：advance care planning）と言います。ACPの愛称を『人生会議』と言います。その時の本人の状態や考え方の変

化によって希望する医療行為が変わることもあり得るため、この話し合いは繰り返し行うのがよいでしょう。

重い病気や事故などで回復困難と判断された時、本人の意思表示が不明な場合は様々な延命処置が行われることがあります。食事ができなくなった場合、鼻から胃にチューブを入れて流動食を流す処置、腹から胃に管を入れる『胃ろう』を造設し栄養を流す処置、呼吸状態が悪化した時、のどから気管に管を入れて機械を用いて呼吸をさせる人工呼吸器治療、心臓が止まりそうになった時に強心剤の投与や心臓マッサージを行うといった延命処置があります。

本人の意思に反した医療行為が行われないためにも、希望する治療と希望しない治療をはっきりさせて、しっかり意思表示しておくことが重要です。いざという時、本人に代わって家族が治療方針を決定しなければなりません。事前に意思表示をしておくことによって本人の意思を尊重した治療を選択できるため、家族も安心できると思います。自分らしく生きるために、人生会議を開いて今の自分の『心づもり』を考え、ノートに記録してみたいかがでしょうか。